

「サステナブルな働き方」 第4弾

「働く場所(ワークプレイス)」 マネジメント

2010年10月13日

有限会社エコネットワークス



「サステナブルな働き方」を目指して

ENWが考える「サステナブルな働き方」とは:

私たちの一人ひとりの生活には、

「プロフェッショナル(職業)」

「プライベート(個人・家族)」

「ソーシャル(地域・社会)」

な存在としての側面があります。

どれかを犠牲にするのではなく、すべての側面を調和させ、相乗的に高めていく働き方、生き方がこれからは当たり前になってきます。

私たち自身も、そのような働き方を実践していきます。

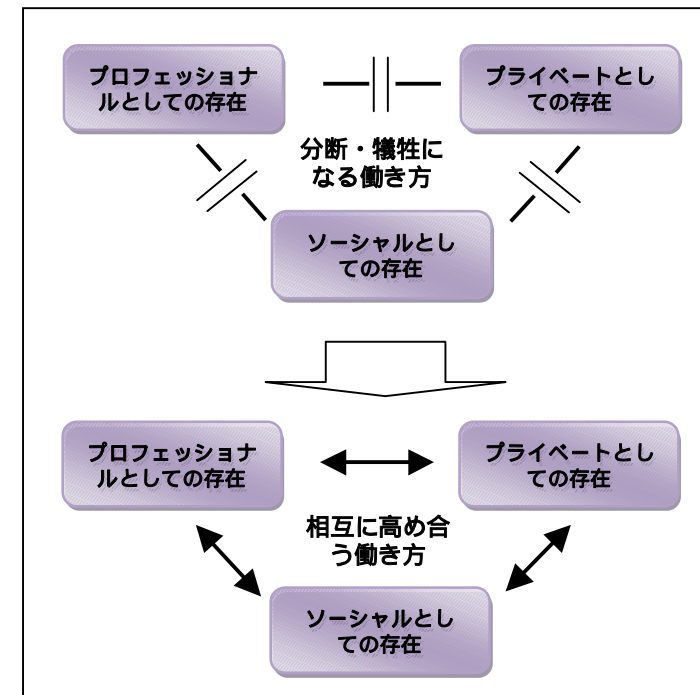
<過去のレポート>

第1弾 「サステナブルな働き方」

第2弾 「フレキシビリティ(柔軟性)のある働き方をデザインする」

第3弾 「距離の壁を超える働き方をデザインする」

<http://www.econetworks.jp/enwreport/workstyle.php>



このレポートでは「働く場所」という切り口で、新しい動きや私たちの実践をお伝えします。

「働く場所(ワークプレイス)」の制約から自由になる

ENWが「働く場所(ワークプレイス)」にこだわる5つの理由:

人によって仕事のはかどる環境は異なる

同じ環境で働くマンネリからの脱出

「通勤時間」をなくす

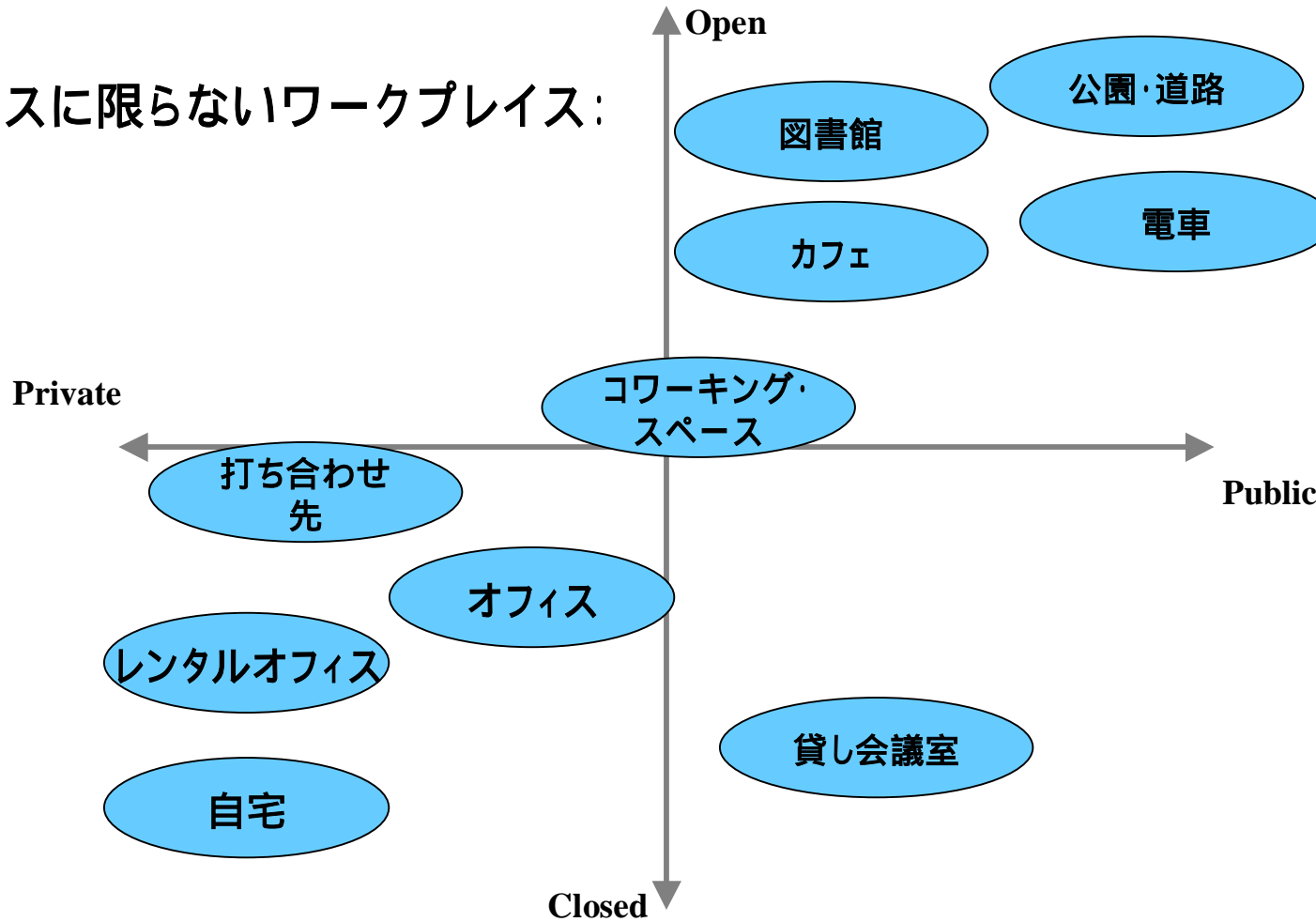
閉じこもらずに、オープンに

自由な発想を求めて

仕事の内容や状況に応じて働く場所を自ら選択することが重要です。

視点を改めてみると、そこはワークプレイス

オフィスに限らないワークプレイス:



それぞれの場所の特性を活かします。

準備：セキュリティを万全に

情報漏洩のセキュリティに要注意：

パスワードを設定する
(ハードディスク、ファイル)

USBや書類はできるだけ持ち歩かない

外ではクライアント名をイニシャルで(A社、B社)

人が多い場所では電話をしない

など…

ENWでは情報セキュリティのマナーをメンバー全員で共有し、徹底しています。

ワークスペースの特性を活かす

それぞれのメリット、デメリット:

<p>オフィス</p> <ul style="list-style-type: none">・組織で働くための場所・効率化されている(ムダが排除されている)・空間の自由は少ない・意外に集中できない・オフィス機器の充実	<p>カフェ</p> <ul style="list-style-type: none">・200円～500円程度の場所代が必要・多様な目的の人が集う・仕事に必要なものは自分で持ち込み・ワイワイ、ガヤガヤ・場所によってリラックス度が異なる
<ul style="list-style-type: none">・働くことを目的とした人が集まる・多様な業種の人が集う・必要な作業環境が整っている・1人で作業するには十分な空間・アクセスが便利な場所にある <p>レンタルオフィス</p>	<ul style="list-style-type: none">・公私が混ざる・時間・空間の自由度が高い・通勤時間ゼロ・ともすれば孤独・自己管理がひととき重要 <p>自宅</p>

特性を把握した上で、作業に適した場所を選びます。

【事例】エコライブオフィス

オフィスのCO2を削減しつつ、環境意識と創造性を高めることをコンセプトに設計されたオフィス。コンセプトは「エコ+クリエイティブ」。環境負荷を低減し、創造性を高める様々な試みがなされている。

コクヨエコライブオフィス

<http://www.kokuyo.co.jp/ecology/ecooffice/>

四季を感じながら働く屋上ガーデンオフィスや社内外の人が交流する場所、人や情報との多様な出会いを感じられる空間など、4つのゾーンに分かれています。



働くことが楽しい。そう感じさせる環境配慮型ワクワク空間。

【事例】コワーキング・スペース

米国で始まった動きで、フリーランスをはじめ、様々な業種の人たちがオフィスを共同で利用し、積極的にコミュニケーションを図ることで、多様なコラボレーションや新しい価値を創出することを目指す場所です。

PAX Coworking

<http://pax.coworking.jp/>

< 仕組み >

- ・会員制
- ・出入り自由
- ・作業机、無線LAN利用可
- ・会議スペースやロッカー、郵便もあり
- ・月に一度、交流イベント



< 運営者インタビュー >

Q. コワーキングとの出会いは？

A. 大企業、フリーランス、ベンチャーと色々なところで働いてきた中で、何度も足を運びたいようなオフィスを作りたかった。管理された窮屈な空間ではなく、オープンで、雑談からブレイクスルーが生まれるような、空間。

Q. どのように使ってほしいか。

A. 休憩がてらおしゃべりをしていたとき、そこから新しいコラボレーションが生まれる可能性がある。ここで働くと「が得られます」と言うことはできないが、セレンディピティが生まれる機会を提供している。

Q. これから働き方はどう変化していくか？

A. 組織に勤めるだけでは先が見えず、有能な人が組織の外に出ていく時代。コワーキングの仕組みはそのための受け皿でもあり、彼らが働くための1つの場になる。そこからブレイクスルーが次々と生まれ、社会全体が変わっていくと思う。

発想が刺激される空間。特にアイデアが欲しいときに訪れたい場所。

【番外編】道路 & 電車の中

発想を自由にすれば、こんなところも「ワークプレイス」になります。

ト레인・ミーティング

電車での移動時間を勉強や資料の読み込みの時間にあてる。それだけではなく、私たちは進捗状況の共有や確認の時間に利用しています。

エレベーターを降りるまでの時間でプレゼンをするという「エレベーター・テスト」ならぬ、一駅で進捗確認をする「ト레인・ミーティング」を実施しています。

地下鉄の閉じた空間が集中力を高めます。



ムーブ・ミーティング

適度に体を動かしていると、体も思考もリラックスし、新しい発想が浮かびやすくなります。

それを利用した打ち合わせスタイルが、体を動かしながら発想するムーブ・ミーティング。歩きながら、自転車に乗りながら行きます。

湖の周りを一周。



代々木～新宿間は適度な距離と解放感でオススメの発想ストリート。

使い方次第で、どんな場所もワークプレイスになります。

「働く場所(ワークプレイス)」マネジメントとは？

大事なものは、組み合わせ方：

仕事の内容(右脳系、左脳系、クリエイティブ系)

一緒に働くメンバー

(個人、2～3名、チーム、クライアント)

使える時間(移動中、次の打ち合わせまで)

プライベートの状況(育児、送り迎え、介護)

その日の体調や天候

ENWでは、今後もワークプレイスにこだわりながら、様々な実践を重ねていきます。

一緒に考えてくださる方募集中

「ENW働き方ブログ」<http://www.econetworks.jp/workstyle>